

<麦類の栽培ポイント>

今年も麦類の播種時期になりました。湿害対策等の基本技術を徹底し、高品質麦の生産に取り組みましょう。

1 適期播種と生育管理

気象庁の寒候期予報（9月24日発表）によると、播種後（12月～2月）の平均気温は「低い」確率40%、降水量は「少ない」「平年並み」確率がともに40%と予想されています。

高品質麦の安定生産のためには、年内の生育を十分に確保することが重要です。今後の気象予報をよく確認し、適期播種を行いましょ。

【播種期間の目安】

ビール大麦・小麦：11月10日～11月25日

もち絹香：11月10日～11月15日

※予報が変わる場合がありますので、最新の気象庁の予報（1か月、3か月、寒候期予報）も参考にし、播種時期を決めましょ。

やむをえず適期より遅れた場合は、播種量を1～2割程度増量して苗立数の確保を図りましょ。

【小麦の施肥】

近年、小麦はタンパク質含有率がやや低い傾向が続いています。基準施肥量（窒素成分10kg～11kg/10a）を参考に、令和6年産の成績に応じた施肥設計をましょ。

①基肥には肥効調節型肥料（BB麦専用麦の香、BBとちぎ麦専用500[※]）を施用ましょ。

②オール14やBB-372などの速効性成分のみの基肥を施用した場合は、生育状況に応じて莖立期直前か穂揃期の追肥を検討ましょ。

注）リン、カリの配合割合が低いため、土壌分析をして不足分を土作り肥料で補いましょ。

【二条大麦の施肥】

令和6年産のタンパク質含有率生産者平均値は10.4%と適正範囲に入っており、昨年産と同様でした。引き続き適正施肥をお願いします。

タンパク質含有率が低いブルーカードの方は、

①基肥でオール14を使用している場合は、肥効調節型肥料（BB麦専用麦の香）に変えましょ。

②肥効調節型肥料（BB麦専用麦の香）を使用してタンパク質含有率が低い場合は、施肥量を窒素成分で1～2kg/10a（0.5袋/10a）程度増肥ましょ。

タンパク質含有率が高いレッドカードの方は、施肥量を窒素成分で1～2kg/10a（0.5袋/10a）程度減肥ましょ。

【もち絹香の施肥】

総窒素量10kg/10a以上の多肥栽培が適しています（肥料不足では多収性を発揮できません）。

施肥例1：全量基肥

BB麦専用 麦の香（14-18-14） 80kg/10a

施肥例2：分施（リン、カリの不足に注意）

基肥 オール14 30kg/10a 2月追肥 尿素 9kg/10a 3月追肥 尿素 9kg/10a

注意

麦類は一般的に酸性に弱く、pH5.5以下になると著しく減収します。特に水稲作付後のほ場ではpH5.0～5.5になっている場合があるため、必ず苦土炭カル等を施用して矯正ましょ（目標pH6.5）。標準的な施用量は、苦土炭カル60～100kg/10aです。

（裏面あり）

2 湿害対策の徹底

麦は播種期・生育期・登熟期の全栽培期間を通して湿害を受けやすい作物です。播種後の降雨により出芽不良となる場合もありますので、十分な対策をしましょう。

湿害の時期	湿害の影響
播種時	出芽不良
生育期	莖数不足、一穂粒数不足
登熟期	粒充実不足

湿害防止のために以下の対策を組み合わせる実施しましょう。

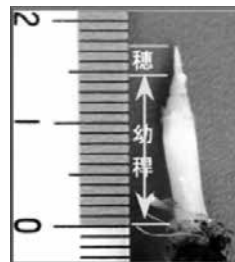
- (1) 排水溝（明きょ）の設置
地表の水はけを良くする対策で、播種前・播種直後が最も効果的です。
- (2) 稲刈り後のスタブルカルチ等の実施や弾丸暗きょの設置により水が地下に抜けるため、排水の効果が高いです。

3 麦踏み

年内1回、年明け後から莖立期直前までに3～4回程度実施しましょう。根張りを良くすることや、霜などによる凍上害防止の効果があります。

雨上がり直後や土壌水分が高いときは、圃場を踏み固めてしまい、生育不良を招くので行わないようにしましょう。

幼穂が2cm位まで踏圧できます →



4 雑草防除

雑草の発生を抑制するため、播種後に除草剤の全面土壌処理を行います。

雑草の種類	除草剤名	作物名	使用時期
一年生雑草	ボクサー	大麦	播種後～麦2葉期（雑草発生前～発生始期）
		小麦	播種後～麦2葉期（雑草発生前～発生始期） 麦2～4葉期（雑草発生前～発生始期）
	リベレーターフロアブル	大麦	播種後～麦3葉期
		小麦	（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）
	リベレーターG	大麦	播種後～麦2葉期
		小麦	（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）
ムギレンジャー乳剤	大麦	播種後出芽前（雑草発生前）	
クリアターン乳剤・細粒剤F	大麦	播種直後（雑草発生前）	
	小麦	播種直後（雑草発生前）	
一年生雑草 (ツユクサ科、カヤクサ科、切科、アザ科を除く)	トレファノサイド乳剤	大麦	播種後出芽前～3葉期（雑草発生前～雑草発生始期）
		小麦	生育期（雑草発生前）但し、収穫45日前まで

※令和6年10月9日現在の登録内容

※ボクサー・リベレーターフロアブル・リベレーターG・ムギレンジャー乳剤は抵抗性スズメノテッポウに効果を発揮します。

※同一剤を連用すると、特定の雑草が占有化するのので、除草剤をローテーションしましょう。

※除草剤（農薬）を使用する時は、ラベルの表示を確認して正しく使用してください。

5 種子消毒の実施

大麦斑葉病やなまぐさ黒穂病といった種子伝染性病害が増加傾向にあります。

発病後の薬剤による防除は困難です。種子消毒で予防し、健全な麦の生産に努めましょう。

麦類種子消毒剤の主な適用一覧（令和6年10月9日現在の登録内容）

農薬名	対象作物	登録内容	使用方法
ベンレートTコート	大麦、小麦	斑葉病、なまぐさ黒穂病	種子粉衣
ベンレートT水和剤20	麦類（小麦を除く）	斑葉病、なまぐさ黒穂病	10～20分間種子浸漬、種子吹き付け処理 （種子消毒機使用）、種子粉衣
	小麦		
ホームイ水和剤	麦類（小麦を除く）	斑葉病、なまぐさ黒穂病	種子粉衣又は6～24時間種子浸漬
	小麦		
ベフラン液剤25	麦類（小麦を除く）	斑葉病、なまぐさ黒穂病	種子吹き付け処理又は塗抹処理、 10～30分間種子浸漬
	小麦		

※種子消毒の効果は、浸漬処理＞湿粉衣処理＞乾粉衣処理 の順で効果が高いとされています。

※機械播きには種子粉衣または、短時間浸漬で処理します。

※農薬を使用する時は、ラベルの表示を確認して正しく使用してください。